二〇二四年一二月六日

日の届く水底に鯉日向ぼこ　あひる
凍て空へクレーン機首を立てにけり　ぽんこ
明星を点し山の端冬茜　むべ
ビル風に上を下へと落葉舞ふ　康子
子ら去りてまたひとしきり木の実雨　なつき
踏む落葉足裏に柔き杣の道　澄子

二〇二四年一二月五日

虫喰い葉高枝にのこる枯木かな　そうけい
ひざ掛けをそつと渡され車椅子　康子
髭のごと山裾埋む尾花かな　ほたる
極月やポストに不在連絡票　せいじ
裸稲架解かれずにある冬田かな　やよい
暖房を効かせて四肢に化粧水　あひる

二〇二四年一二月四日

船便で届くカードやクリスマス　むべ
旅衣ときて柚子湯に寛ぎぬ　澄子
園児らの生誕劇やデイサービス　せいじ
紅葉散る池に水漬きし小舟かな　董雨
孫どちとひいふう数ふ柚子湯かな　ふさこ
冬木立樹幹に透けて茅舎見ゆ　むべ
天守閣持ち上げてをる紅葉山　やよい
川べりに帯なす石蕗の花浄土　康子

二〇二四年一二月三日

一掬の手水にをどる散紅葉　康子
お喋りのお茶代わりなる蜜柑かな　こすもす
参磴に仰ぐ大杉天高し　山椒
詣で道落葉時雨に差し掛かる　うつぎ
闘病の夫と戴く薬喰　きよえ
その中に小鳥紛れて銀杏散る　風民

二〇二四年一二月二日

松ぼくりころがり出たる旅鞄　むべ
寺紅葉抽んでてをる九輪かな　山椒
どんぐり駅電車ごっこの来て止まる　風民
武蔵野を烟らす落葉煙かな　むべ

二〇二四年一二月一日

焼き味噌によさげと拾ふ朴落葉　うつぎ
逍遥す湖畔の小径帰り花　うつぎ
ジャングルジム粧ふ山へVサイン　風民
黄落をライスシャワーのごと浴びる　むべ
着ぶくれてモスラ這ひせる吾子をかし　もとこ
凍空を焦がせるコンビナートの灯　せいじ

二〇二四年一一月三〇日

楠大樹を見上ぐるごとく実南天　ぽんこ
気動車に聞く国言葉冬ぬくし　せいじ

毎日句会みのる選・二〇二四年一二月八日